

竜王北中学校 学校関係者評価書

令和 7 年 2 月 7 日（金）

（竜王北中学校）学校関係者評価委員会作成

第 1 回 学校関係者評価委員会

実施日：令和 7 年 1 月 3 1 日（金）14 時 30 分～16 時 15 分

会 場：竜王北中学校会議室

参加者：（学校関係者評価委員）

石合廣光 田中陽子 加藤豊 小尾裕子 長沼勇二 川崎大成
（学校側）

青柳香 望月英宏 山岸江利香

I 学校側から提案された内容

- ・ 令和 6 年度自己評価書
- ・ 令和 6 年度自己評価シート集計結果

II 協議された主な内容

- ・ 令和 6 年度自己評価書についての意見及び感想。
- ・ 本校の教育活動についての質疑とそれに対する意見および今後の改善策。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・ 肯定的な回答（A「とてもそう思う」B「そう思う」の合計）が、36 項目中 28 項目で 85% 以上となっていることから、学校運営は概ね良好な状態にあると捉えている。
- ・ 肯定的な回答が低い（85% 未満）項目は、以下の 8 項目である。
 - 1 学校は多忙化解消に努めている
 - 2 危機管理マニュアル（防犯、防災、事件、事故等）を理解している
 - 3 業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている
 - 4 ICT を効果的に活用した授業
 - 5 宿題や家庭学習に対する指導
 - 6 地域人材や施設を活用した教育活動
 - 7 PTA 活動への積極的参加
 - 8 学校全体で、ICT 等を活用して、表現力の向上に努めている

II 特 徴

I・II 学校目標に関して、学校経営・学校運営に関して

○多忙化解消及び働き方改革について

- ・ 日課時程表を改定し、部活動に費やしていた時間を他の業務や家庭での時間として活用できた。また、職員会議資料を事前に配布することで、提案の効率化を図った。さらに、ちらしなどの配付物をメール配信することも行った。今後も継続してほしい。
- ・ 教職員一人一人が多忙化解消や業務改善のために何ができるかを考え、実行するようにしたが、今後も継続して取り組んでほしい。
- ・ 行事が終わるごとに振り返りを行い、PDCA サイクルを確立する。3 年間を見通した計画を立て、各行事のねらいを精選し、内容のスリム化と業務の効率化を図る。来年度については、年間行事予定を校内企画委員会で検討し、さらに職員会議で全教職員による検討・確認を行うことで、先を見通した計画を立てて効果的な教育活動を推進してほしい。

Ⅲ 学習指導について

○家庭学習について

- ・質問項目に「先生はよく勉強を教えてくれるか」という項目があるが、「教員は教える」という存在ではなく、「学習の仕方を教える」のが教員であり、生徒が受け身の学習ではなく主体的に学ぶように導くことが大切である。
- ・教員の教え込みが多いと家庭学習が進まない。学習内容に興味・関心があるからこそ家庭学習が進むのだと考え、授業と家庭学習が有機的につながり、生徒の興味・関心を高めるようにすることが必要である。
- ・スマートフォンやゲームの一日の利用時間が増加しており、生徒の所持率も高まっている。このため、学校ではスマホの SNS 過剰使用が学業や人間関係に与える悪影響について学び、正しい使用方法を学ぶ機会を設ける。また、生徒と保護者が一緒に利用時間の制限やルールを決めることが重要である。そのため、生徒と保護者を対象とした学習会で、このテーマについて考える機会を持ってほしい。

○ICTの活用について

- ・昨年度から継続して校内研究で「ICT の効果的な活用の研究」を進めている。今年度も講師を招き学習会を行った。今後も、ロイロノートを使った授業や問題アプリによる復習など、ICT を効果的に使った実践をさらに推進してほしい。

Ⅳ 生徒指導について

○不登校について

- ・生徒が SOS を出す方法を増やし、その方法を生徒に知らせることで、一人で抱え込まない環境を作りたい。そして、これが早期発見につながるようにしたい。また、複数の逃げ道を提供することで、生徒が少しでも安心して生活できるようにしてほしい。
- ・『お子さんのことで相談できる先生がいるか』という質問に対して、「いない」と答えた保護者が 6.0% (16 人) いたことが気になる。学年ごとの分析では、3 学年において「いない」と答えた保護者が少ないことがわかった。これは、3 年間にわたる保護者との関係構築や進路相談など、深い関係が築けているためだと考える。今後は、全ての学年で保護者と連携を深める努力をしてほしい。
- ・保護者アンケートで「お子さんには、相談できる友達がいるか」という質問に対して、「わからない」と答えた保護者が 16% と高かったことが気になる。スマホの所持率が上がっていることが原因の一つであり、保護者が子どもの友人関係を把握しにくくなっているのではないかと考える。このため、学校が親子関係をつなげる重要な役割を果たすのではないかと、意見をいただいた。

Ⅴ 地域との連携について

- ・コロナが収束した今、協力できる活動には積極的に参加していきたい。「どんど焼き」や防災訓練など、生徒がもっと積極的に地域の活動に参加してほしい。また、「お幸さん」で吹奏楽部が発表を行う機会をつくるなど、中学生が参加できる方法もあるのではないかと意見をいただいた。
- ・民生児童委員や子育て支援など、もっと声をかけて協力を仰ぐことが必要である。不登校などの生徒の家に訪問してもらうこともできると新たな支援方法を教えていただいた。

Ⅶ 創甲斐教育について

- ・「国語力の向上」がとても大切なことである。朝読書、長文の読み取り、書き起こすことなど大切な力だと考える。そのためにも読書を続けていくことが大切である。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・不登校については、今年度 100 日以上欠席している生徒が昨年度より減少していることは、甲斐市教育委員会から発行されている「不登校取組リーフレット」に基づいた支援の成果だと考える。今後も不登校生徒を増やさないように、全職員で生徒理解に努め、未然防止や早期対応に取り組み、安心安全な学校づくりを推進してほしい。また、スクールカウンセラーや子育て支援課だけでなく、民生児童委員などとも連携し、よりきめ細かな支援につながるようにしてほしいという意見をいただいた。
- ・家庭学習の充実については、生徒が主体的に学べるよう、授業と家庭学習の連携を深めたい。また、継続して行っている「北中ノート」（自主学ノート）を利用し、生徒会の取り組みを通して生徒自らが行うものとしたい。さらに、家庭でのスマホやゲーム使用時間が増えていることから、スマホやゲームの使用方法的な学習会などを行い、保護者と連携して家庭での過ごし方を考える必要がある。
- ・ICT の活用については、生徒の意見交換や問題提示など、生徒の学びに効果的な活用が必要とされている。校内研究では継続的に研究を進めている段階である。校内での情報交換や講師による学習会を行い、教員内でも学び合いを進めてほしい。
- ・多忙化・働き方改革については、行事検討や先を見越した予定づくりを行うことや、ICT を利用して業務の効率化を図るなど改善に努めたい。また、管理職が教職員の出退勤時間を把握し、声かけを行いたい。また、部活動については、地域移行など市教育委員会と協力して進めていくことが確認された。

※特記事項

- ・特になし

記載責任者（竜王北中学校 学校関係者評価委員長） 氏名：石合 廣光

